

## 神奈川発！総合設備機材展 「次世代に未来を臨む設備博～生活環境の祭典～」に どう向き合ったのか

理事長 佐々木 靖 太



ました。

当組合も昭和12年に神奈川県水道衛生管鉄工組合として創立され、諸先輩方が英知と結束で苦難を乗り越えてこられました。これまで培われた信頼と実績を継承し、昨年2月11日に創立80周年記念式典を横浜ベイシェラトンホテルで開催しました。行政機関はじめ、関係各位の多くの皆様にご臨席をいただき、共に80周年を盛大に祝う事ができました事は組合員にとって大きな喜びでもありました。

そして、創立80周年記念事業の一環として「次世代に未来を臨む設備博 生活環境の祭典 神奈川発！総合設備機材展～いのちを繋ぐ先進技術～」六つのテーマ（①環境・エネルギー②健康・快適③安全・安心④建設・リフォーム⑤先端技術・IT⑥社会貢献）を9月15日（金）～16日（土）までの2日間、パシフィコ横浜展示ホール「Bホール」にて開催いたしました。

この度の設備博は、新たな試みの展示会であり、各企業の皆様方に出展のご協力を依頼致しましたが、それぞれに会社の諸事情もあり、交渉も思いのほか進展せず、小間数の確保に相当な時間や労力を費やしていました。こうした状況にあるのにも関わらず、大切な情報を共有せずに疑問や問題点を真剣に議論する事を怠っていました。

また、イベント運営会社から企画書を提示されましたが、見積内容やコスト面に大きな隔たりがありながら、具体的な費用のチェックも何かと先送りしていました。実行委員会の組織が機能するには、実行予算が要になりますが、実際原価を把握する事が出来ていない為、作成が遅れ、責務を果たせていませんでした。

こうした進捗状況に鑑みて、設備博を開催するに当たり、このままでは、事業計画と乖離が生じ、当初には想定していなかった大幅な赤字になると判断を致しました。今後の対応策として、理事会において皆様から建設的な意見や疑問や苦言など、賛否両論の忌憚りの無いご意見を頂きました。しかし、この設備博の開催については、行政機関及び関係団体等に共催・後援を頂いております。ここに来て後戻りすることは組合の信用の失墜にもなりかねず、存在感の意義を問われる事を認識して頂きました。

このような考え方に立って、理事会において設備博に係る予算案の審議を図り、開催か中止か、賛否を問いました所、全員一致で可決され開催する事に決まりました。

こういった想定外の事態に対し、様々な角度から分析し、その局面を打開するには、新たに組織変更をせざるを得なかった為、新組織体制の統括実行委員長に石田副理事長を任命し、各委員長に目標を設定し、その職務を遂行するには、使命を共有し、具体的な活動内容の協議に取り組んで参りました。

特に設備博の運営経費について、抜本的な見直し検討を行い、出展者にコスト合理化の提案にもご協力して頂き、適正価格に歩み寄る事が

できました。

そして、6月に入り、設備博の開催まで残り期間が3カ月あまりとなり、実行委員会としては、小間数の確保に焦りや不安もありました。実際のところ、準備期間の不足を理由に出展者の方から辞退の申し出もありました。そこで、改めて機材商組合、機材商の方々に更なる小間数の確保にご協力・ご支援をお願いしました。こうした経過を経て事態が急速に進展する中、大きな組織力と行動力のお陰で、大幅に出展の申し込みを増加させる事ができました。

また、一方で事業活動の再検討や方向転換の必要に迫られるなど、厳しい状況に置かれており、その打開策として固定観念に囚われず、新たな発想力で、六つのテーマで出展者の裾野を広げる取り組みが功を奏しました。

石田実行委員長を先頭に皆様にはボランティアの領域を超えた負担も多く、しかも厳しい条件下で苦難の道のりを共有し支え合い、開催への大きなエネルギーに変えました。

このようにして努力が実り、行政、関係団体、幅広い分野の企業の皆様にご協力・ご支援をいただき、最終的には180コマの出展を確保し、その結果、危機的状況を何とか乗り越えることができました。

ここに至るまでの2年間を今振り返ると、様々な紆余曲折を経て、苦悩する時期もありましたが、連携と協力によって役割と使命を果たされた事と思います。また外部の専門家の多くの皆様方からの豊富な経験と実績に基づく助言やお力添えがあったればこそ、このイベントを開催する事ができました。

いよいよ当日を迎え、公私共にお忙しい中、多くのご来賓はじめ関係団体の皆様方にご臨席をいただき、オープニングセレモニーが行われ、設備博がスタート致しました。

展示会の会場には、県下のみならず全国から

ご来場頂き、皆様それぞれが目的にあったブースで、商談や情報交換、仕事の内容の質問など、用途に応じて様々に活用され、有意義な時間を過ごされた事とっております。

また、工業高校の学生さんをはじめ、多くの若い世代が400名近く来場して頂きました。その中で機材商の方々に真剣な眼差しで質問をされ、学生さんが実際に自分の目で見て、触って、感じる事ができ、嬉しく、「大きな収穫がありました」という言葉が印象的でした。

会場内も明るく活気に溢れ、組合員の皆様も大きなパワーをもらい若返ったのではないのでしょうか。我々の管工事業界の存在感と魅力等を知っていただいた事は、次世代の若い力の入職にも繋がるといった使命を果たせたと思っております。

当日の受付には混雑が予想され、組合員の人数にも限りがあり、バザー、会場内の案内などにお手伝いや応援をして下さった関係者やご家族の皆様、本当にありがとうございました。

この度、次世代に未来を臨む設備博は、各出展企業様はじめご後援頂いた行政機関、関係団体など、本当に多くの皆様方に支えられ、180社様に出演いただくことができ、来場者数も1万2500名を超え、大盛況のうちに終了する事ができました。

外部の方々からも我々に思いもよらない称賛や評価を頂きまして、まさに“予期せぬ成功”に執行部もいままでの努力や苦勞が報われて感動した事と思います。

今後は、これを契機に設備博の新しいモデルの発信力を高めて行く事を考えております。

結びに、この度の展示会開催に当たり、格別のご支援とご協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、参加された皆様の一層のご活躍・ご発展を祈念申し上げます。